

3. 活動内容

- (1) 1年間の主な活動内容について記載願います。
(2)

1 本校のESDの特徴

(1) 活動のねらい

「持続可能な社会を構築するための人づくり」を目的とし学校・地域・保護者が世界遺産の美しいまちづくりを目指し、協働的な活動を通して、地域を愛する児童の育成に取り組む。

(2) 活動の目指す成果

- ① 郷土(地域)を愛する心の育成
- ② 地域の環境や郷土に関心を持てる子どもの育成
- ③ 持続発展教育に求められる価値観、人間性を育む
- ④ ユネスコスクール加盟校として、ESDの活動を国内や国外の学校に紹介する。
- ⑤ ひまわりプロジェクトの体験を通して、地域とのつながりを深め、美しいまちづくりの意識を高める。

2 ユネスコスクールとしての活動・全体計画

(1) ESDの視点に立った学習指導の目標 (視点整理型アプローチ)

- 教科等の学習指導を進める中で「持続可能な社会づくりに向けての課題を見出し、それらを解決するために必要な能力・態度を身につける」ことを通して、持続可能な社会の形成者としてふさわしい資質や価値観を養う。

(2) 活動の視点

- ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度(単元構成に位置づけ)
 - ・ 批判的に思考・判断する力
 - ・ 未来像を予測して計画を立てる力
 - ・ 多面的、総合的に考える力
 - ・ コミュニケーションを行う力
 - ・ 他者と協力する態度
 - ・ つながりを尊重する態度
 - ・ 責任を重んじる態度

(3) 主な活動

- <1年生> 「こうえんであそぼう」「あきをさがそう」
- <2年生> 「レッツゴーたんけん」「あきのまち」
- <3年生> 「私たちの街じまん」
- <5年生> 「ひまわりプロジェクト」
- <4年生> 「バリアフリー社会を考えよう」
- <6年生> 「大牟田の歴史遺産を未来に伝えよう」
「わたしの未来のゆめを伝えよう」
- <全学年>
「ひまわりプロジェクト」
学校・地域一体型3 特徴的な活動事例の紹介

第6学年 「大牟田の歴史遺産を未来に伝えよう」

(1) 学習のねらい

- ①「世界遺産そのものへの誇り」
- ②「それらの世界遺産を築いてきた先人の思いに対する誇り」
- ③「それらの世界遺産を後世へと引き継いでいこうという誇り」

(2) 単元構成

3つのステージで「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の場面を設定し、児童の探究的な学習活動が連続・発展することができるようにした。

(3) 活動の実際

<ステージ1>

「長崎の歴史遺産について知ろう」では、修学旅行で交流する長崎市立大浦小学校の6年生児童との交流会に目的意識をもって参加することができるように、「世界遺産」「戦争」「祭り」「名物」の課題別に分かれて調べ、5年生に対してポスターセッション形式で発表した。

<ステージ2>

ステージ1での5年生からの評価や振り返りから成果と課題を整理し、「大牟田の歴史遺産について知ろう」という課題を設定した。世界文化遺産見学という体験活動を通して情報収集を行い、リーフレットやチラシ、劇としてまとめた。

世界文化遺産登録一周年の記念日である7月5日、大牟田駅前にて横断幕をもち、作成したリーフレットやチラシを配布した。同日、全校朝会にて全校児童に劇による発表を行い、大牟田の世界遺産の素晴らしさについて伝えた。



<ステージ3>

ステージ2での市民の方々と全校児童からの評価や振り返りから成果と課題を整理し、「大牟田の歴史遺産の素晴らしさを伝えよう」という課題を設定した。修学旅行の交流会後も長崎市立大浦小学校の6年生児童に大牟田の歴史遺産について興味・関心をもってもらえる工夫を話し合い、劇での発表に加えて、「双六」「カルタ」「アルバム」をプレゼントすることが決まった。修学旅行での交流会では、一人一人が自分の役割に責任をもって活動したり、プレゼントに喜んでもらえたりして、多くの満足感や達成感を味わうことができた。

4 本年度の成果と課題

○ 成果

- ・ 児童が探究的・協働的に学習活動に参加する中で、「戦争と平和とのつながり」や、「過去の歴史遺産と現在の豊かな生活とのつながり」を実感することができた。

○ 課題

- ・ ステージ1において、長崎の歴史遺産を体験的に学習できる手立ての工夫が必要。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

■ 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）

時間外活動の時間を使用

ユネスコクラブの活動として実施

その他（)